

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	うるま市立中原小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	心理的安全性を基盤とした「中原っ子の学び」の創造

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1. 活動に至る経緯

コロナ禍や業務改善等の影響によって個業化がすすんだことで、教職員間のつながりが弱まっていた。また不登校児童の増加や学力の二極化等、子供達の抱える不安要素からみても、心理的安全性は決して高くはない学校であった。子供の学びを支えるには、指導技術の改善だけでは不十分であり、教職員一人一人が教育活動の充実に主体的・協働的に取り組む組織づくりが必要であった。

私たち教師には「働き方や学びづくりに対するマインドセット転換」、「教師同士が支え合っていることの実感」が、子供達には「学習活動の中でたのしさややりがいを味わうこと」が必要であると考えた。そこで、教職員の協働的組織風土の醸成および主体的な学びづくりを学校組織マネジメントとして推進し、『心理的安全性を基盤とした「中原っ子の学び」の創造』を研究テーマに設定した。

2. 活動・研究の意義、目的

まず職場の心理的安全性を高める取組として、職員の「対話の時間」、そして子供達の主体的な学びづくりとして「単元内自由進度学習」を発展させ、「自己調整力・自学自習力」の育成を図る。

教師とNPO法人「学校の話しよう」との協力体制をもとに、協働的組織風土の醸成を目指した異学年・教科間における交流の場を定期的に設定し、学校課題や研究内容に基づいたテーマについて対話を行い、互いに支え合い成長する職能集団の醸成を図る。子供達の未来を起点とした話し合いを重ねる中で、各教師が自他のよさを認め、多様性を受容し、やりがいを感じながら、次世代を担う子供達に求められる資質・能力の育成にむけて日々取り組みに努める。

また、単元内自由進度学習の充実・発展に関する先進校であり、共に「対話の時間」を実施継続している、埼玉県戸田市立美女木小学校への視察研修を行い、主体的な学びづくりへの新たな視点・知見を学び、本校の実践研究に活かしていく。

3. 活動時期

令和5年4月～令和6年2月

4. 活動内容

(1) 対話の時間

今年度は、Long ver. を4回、Short ver. を7回実施した。

① ロングバージョン

長期休業中に実施し、4月にはどの校内研修よりいち早く「対話の時間」に取り組み、チームとしての関係性を意識しながら新年度をスタートした。12月には、地域の方や保護者を招いて、中原っ子の学び育ちについて対話を展開し、子どもたちの成長への願いに思いを馳せ、互いの声に耳をかたむけることで今後の教育活動へつながる充実した時間となった。

② ショートバージョン

実践知の交流をねらいとし、異なる担当学年や異なるキャリアの先生方でグルーピングをし、ファシリテーションを意識しながら対話を深めた。教育感や日々の実践、子どもたちについて熱く語り合う教職員の姿があった。

対話の時間 ロングバージョン

学校課題解決に向けた方策の検討
組織的意形成

4月 新学期スタート! 5-6中原小の出会い	7月 中原小 指導の重点事項	8月 2学期スタート! 「何を大切に過ごす?」	12月 中原っ子の 学び育ち
------------------------------	----------------------	-------------------------------	----------------------

新学期どんお
業務より先に



地域の方
保護者も



対話の時間 ショートバージョン

実践知の交流

5月 バックキャスト みんなで語ろう! ～未来予想図～	6月 「な・か・は・ら」 4つの育てたい 資質能力について	9月 2学期スタート! 子どもの変化と 指導のギャップ	10月 運動会に向けて よーいドン!! 行事と日常をつなぐ
--------------------------------------	--	--------------------------------------	--

異なる
担当学年で



異なる
キャリアで



(2) 単元内自由進度学習

① 視察研修 (埼玉県戸田市立美女木小学校)

研究主題「一人ひとりの学び×協働×ホンモノ＝わくわく!」のもと、ICTの文具的活用、個別最適な学びの日常実践を学んだ。

- ・全ての学年でICTの文具的活用がなされていた。
- ・様々な教科において、自由進度学習が展開され、当事者意識を持った子供主体の学習がなされていた。



タブレット活用した自由進度学習の様子(美女木小)

② 中原小の取り組み

単元の学習内容を見通し、児童自らがその時間に取り組む学習内容を決定しながら問題解決を図る「単元内自由進度学習」を右表のように実施した。

子どもたちに学びを委ねていくことで、自分に適した学習進度で安心して学習に取り組み、自分の力で粘り強く考え続ける姿や、自発的に友達に相談する姿や、問題解決を図るために協働する姿、体験的な学びの場の中で探求的に学ぶ姿や、生き生きと学びを楽しむ姿が、あらゆる学級・学年で見ることができた。

学年	1学期実施教科・単元	2学期実施教科・単元
1年		国語「自動車くらべ」
2年	算数「長さ」	算数「かけ算(2)」
3年	算数「大きい数のたし算ひき算」	算数「大きい数」 図工「クリスタルアニマル」
4年	算数「角」	算数「資料の整理」 社会「地域の発展に尽くした人たち」
5年	算数「小数のかけ算」	算数「図形の面積」
6年	算数「分数のかけ算」 体育「マツト運動」 国語「提案する文章を書こう」 社会「大陸に学んだ文化」	算数「対象」 家庭科「生活を豊かにソーイング」 体育「跳び箱運動」 国語「日本文化を発信しよう」
理科	5年「魚のたんじょう」	4年「とじこめた空気と水」 6年「月の形と太陽」 「生き物のくらしと環境」
音楽	6年「いろいろな音色を感じ取ろう」	6年「いろいろな和音の響きを感じ取ろう」

R5 中原小 単元内自由進度学習計画

子どもたちが自分の学びたいことを友だちと一緒に学ぶ体験を通して安心・安全に学習することができた。



個別最適な学びの姿



協働的に学ぶ姿



遊びを通して学ぶ姿

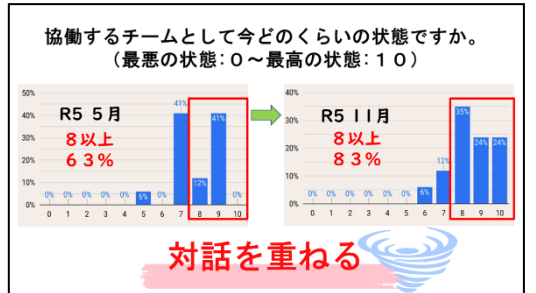


体験を通して学ぶ姿

5. 活動の成果

(1) 職員：協働的組織風土の醸成

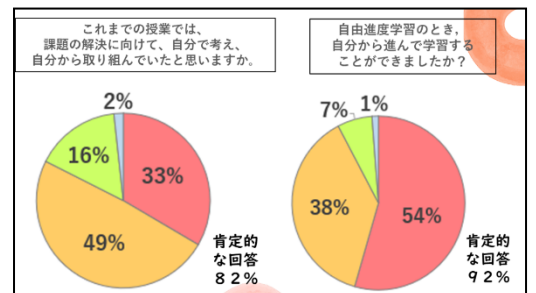
対話を重ねることでチームとしての関係性が密になってきており、毎月行っているリフレクションのアンケートで「協働するチームとして最高値を10とし今どのくらいの状態か」という問いに、5月は8以上と答えた人の割合が63%だったのに対し11月では83%に向上した。わずかな休憩時間にも、情報交換が盛んになるだけでなく、これまで以上に学年間での教材研究が密になり、さらには学年を超えた教材研究が様々なところで行われるようになった。本校では、「対話の時間」を通じて醸成された関係性が、様々な教育実践の基盤となっている。



協働するチーム状態アンケートの結果

(2) 児童：主体的に学ぶ児童の増加

自由進度学習や自学自習の取り組みを行うことで、本県児童質問紙の「自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」や本校実施の学びアンケートで「自分から進んで学習することができましたか」の主体性を問う質問項目では、80%以上を超える児童が肯定的な回答した。さらに自由進度学習に絞った回答では、自信を持って進んで学習すると回答した児童が過半数を超え、児童の主体的な学びを創造することができた。



児童に主体性を問うアンケート結果

6. 今後の展望

「対話の時間」「自由進度学習」は、本校組織マネジメントの核となる取組である。その取組推進のためには、「目の前の子供の姿をしっかりと見ること」が重要である。日々の子供の姿から見取れるよさを言葉にして子供に届け、勇気づけを積み重ねることで、子供は動き出し、教師も指導力を発揮していく。その営みを、教師間で、子供同士で活性化させることで、心理的安全性は高まっていくものだと実践を通して感じている。心理的安全性を高める取組を継続し、不安を抱きながらも、新たな一歩を踏み出す子供のエネルギーを発揮させていく。今後も、令和の日本型学校教育の具現化に挑み、実感を伴いながら、子供と共に学びを創造していく。

